

「自分たちは迷惑産業。だから地域の人の理解が欠かせない」。昨年二月に豚熱感染が確認された愛知県豊田市の民間養豚場「トヨタファーム」を経営する鋤柄雄一さん(五〇)は言う。

臭いが出る畜産業は、近所に農場があることを歓迎されず「面

迷惑産業

目録

と向かって苦情を言われることもある」。まして豚熱の時は、道路の封鎖や消毒用の石灰の散布も行われ、「周りの人に許してもらえないんじゃないか」と廃業も考えた。

悩んだ末に再開を決め、五月下旬に地元で食材を手頃な価格で消費者に届けるイベントを開き、一年二カ月ぶりに自社ブランド「三州豚」を販売した。

農場の再建は道半ば。「おいしい肉を食べてもらい、食育や地域貢献を続けていくしかない」。鋤柄さんは地域で必要とされるこ

とが最も大事と考えている。